



— 夢を語り — Talking about Dreams

Discovery

松商学園高等学校

校長・生徒会座談

今年で開校125年を迎え、あまたの人材を県内外に送り出してきた松商学園高校。就任3年目を迎えた長野雅弘校長と、新年度の生徒会長に就任した三村悠晟さん、副会長の成澤洸太さん、宮下結月さん（いずれも2年）で、座談会を開いた。完全終息とまではいかないが、落ち着いてきたコロナ下での学校生活や松商の現在、未来を語り合った。

— 個人、仲間、教師と共に団体戦として強く —

— 勉強も団体戦（長野校長）

就任して3年間、重点を置いてきたことは、生徒たちの「心理的安全性の確保」です。勉強だけでなく運動などあらゆる過程で、「成果を上げる学び方」には、心理的安全性の担保が必要と、学術的にも見なされてきています。

分かりやすく球体をイメージして話をしましょう。高校時代の成果達成のプロセスで、本人の努力がもちろん一番大事で、球体を形作る外側部分の60%に値します。

日常の絶えざる努力は、多くの生徒たちができることでもあります。でも、60%は大きい数字ですが、中身がないと、もろく崩れやすい。

思春期である高校時代は論理性を高めていく年代です。学べば学ぶほど高まっていくのですが、完成されていないので、いとも簡単に消極的になって崩れてしまうことがある。勉強を遠ざけたり、部活を辞めてしまったりということが、どうしても起きてしまいます。

外側の60%を強くするためにも、内側の行程で大事になってくるのが「仲間」の存在です。内側の30%を占めています。

「こんなことでうまくいかない」「どうした、大丈夫?」「みんなで頑張っていこうよ」。シンプルな言葉でも先輩や同級生と互いに声をかけ合い助け合うことで団結し、支え合うことでより強固になっていきます。

最後に、球体の中心で一番大切なのは、10%を占める「非常に強固な大人」の存在です。学校ではもちろん教員になります。学校の先生は日々の努力や研究を通じて使命

感を強く持ち、心のよりどころとなる。それが心理的安全性へとつながり、団結はより強固なものとなります。

最後の10%が強いと、全て支え合っていくことができ、成果達成につながります。

だから「学校は団体戦」という話をします。就任して3年間の取り組みの基準は、全て心理的安全性に基づいて進めてきました。



副会長【宮下結月・みやしたゆづき】
2年 特進コース・文系

— 士気が上がる授業（宮下副会長）

団体戦と話されましたが、特進コースの授業は現在とてもにぎやかになっています。特進だけではないと思いますが、先生たちとの距離が近い印象です。

先生とみんなで問答しているというか、一つの課題や問題を見詰め、ひもといていく傾向があります。生徒同士のその場の協議や先生との意見交換などが繰り返され、問題や課題を深掘りしていくのが、楽しくて仕方ありません。

コース全体で士気を高め、成績を上げている感じがします。

— 探究心の大切さ（長野校長）

うれしいお話です。中学時代に分散登校やオンライン授業が多発したことも一因かもしれませんが、コロナ禍で閉鎖的になり過ぎたことから、現在生徒たちの探究心が非常に強くなっている印象があります。

また、この3年間で先生たちも大きく成長したと感じています。強固な芯と仲間。個人で、団体戦で強くしてきたことで、5年前に比べると、大阪大や国際基督教大などの合格者も出るようになりました。国公立はじめ難関私立など、大学進学率が213%上がっている状態です。

団体戦の効果は、勉強だけでなくスポーツでも形になってきています。今年の北信越大会には200人以上、全国大会には約100人の生徒が出場しました。授業でやれないことをクラブ活動に反映させ、取り組んでいるのです。

運動部が強いイメージがありますが、文化部の探究活動がとても活発になりました。模擬国連への出場をはじめ、ツバメの研究、信州大での交配実習、国際交流など、盛んになってきました。

— 校則について（三村生徒会長）

ちょっと話題を変えて、少し勇気を出して聞くのですが、多くの友人たちから、制服の着方など校則が厳しいと聞きます。難しいとは思いますが、緩和や改善する考えはありますか？



生徒会長【三村悠晟・みむらゆうせい】
2年 文理コース・理系

— 提要に基づき（長野校長）

法律の話になってすみませんが、生徒指導提要、児童福祉法の決まりに基づいてやっています。

学校責任者には、国や警察などから、全国の未成年事件などさまざまな事例報告を受けます。その報告書や合同会議などで、事件に巻き込まれてしまった事例の服装や髪形など、写真やサンプルを通じて具体的に教えてもらっています。

生徒たちの思春期の気持ちも理解していますが、法律に基づきながら、犯罪に巻き込まれないためにも、現時点の校則を重んじます。

— 守ってもらうこと（三村 生徒会長）

お話を聞いて、学校が生徒を守ってくることがよく分かりました。生徒間の共通認識が足りない現状なので、学校が安心・安全面を重視して校則基準を作っていることを、

もっと情報発信してほしいです。

— 長野校長

職員会議で勉強会もスタートさせています。近年では女性のスカートだけでなく、スラックスなども取り入れてきました。先生、生徒と共に話し合っていきましょう。

— 意見が合わなくても（成澤副会長）

少し残念な話ですが自分の中学はかなり不登校が多発していました。松商学園の良さは人の多さだと感じています。性格が合わない人がいてもいいと思うことができました。

マンモス校で怖いイメージもあったけれど、クラスを飛び越えいろんな人たちと出会うことがありがたいです。

— 長野校長

毎日来ることが楽しい学校にしたいです。生徒たちが楽しいと思えるトップ高にもっとしたい。さらに強くするためにも夢（進路）がかた松商にしていきたいです。

それには、大人になるために自分の選択肢を広げられるようにしたいし、やり直すチャンスが何度もある環境にもしたい。

学業、スポーツ、文化活動を含め、さらに探究的になれるように、環境を整えていきたいです。

— 最後に生徒会として（三村生徒会長）

もっとみんなが輝ける学校にしたいと考えています。全国大会に出場してきた生徒たちもたくさんいるけれど、第三者が見ても熱心が伝わるのに注目されていない部活動や、個人の活動など、まだまだあります。

生徒会として全生徒にスポットライトを当てたい考えがあります。全員で楽しい学校像が描けるよう、努力したいです。



副会長【成澤洸太・なるさわこうた】
2年 文理コース・文工系



【長野雅弘・ながのまさひろ】65歳。名古屋生まれ。大学教授や全国各地の高校校長を歴任。2021年4月、松商学園高校校長就任。

MATSUSHO THE FACE

今年の松商学園は、海外研修や大学との共同研究などで積極的に活動してきたインターアクト、環境自然学習会参加者たちの所感をレポートする — Go to Dreams

信州大学で交配実習



成功できた喜び
2年 文理コース・文工系
水野里桜(みずのりお)

環境自然学習会顧問の折井真弥先生が信州大の伊藤靖夫准教授と交流があって、「糸状菌を用いた交配実習」を学ぶことができました。

白と黄色の違う紙の上で細菌を交配させて、何色に変化したか、そしてなぜその色になったか研究しました。

最初は先生や教授の説明を聞いて難しそうに思い、うまくいかなくて不安でした。ですが、いろんな酵素が全て機能して色が緑に変化して成功しました。

7人で実験したのですが、変色が成功したのは2人で、その1人になってよかったです。

探究心は止まらない



規則性を探し論文へ
1年 文理コース
三澤陽(みさわあきら)

磁石振り子の研究をしています。振り子の先端に重りの代わりに磁石をつけて、下(地面)にも磁石をつけて反発する動きに興味があり、規則性を探る研究をしています。

N極とS極を上下変えるだけで大きく動きが変わります。最終的にどんな軌跡をとるかなど研究していますが規則性をまだ見いだせていません。

特に指示があるのではなく、自分で角度や重さ、スピードなど条件の組み合わせや設定を考えます。一から自分でやるのは難しいけれど、何とか規則性を見つけ論文にしたいです。

国際交流から大きな夢へ



マレーシアで国際交流
2年 商業科(ITコース)
横山加奈(よこやまかな)

松商に進学しインターアクトクラブに所属して、県の信州つばさプロジェクト(高校生海外留学支援事業)を利用して、3月にマレーシアに1週間ほど短期留学しました。

日本企業でインターンをしたり、クアラルンプールの女子中・高校に行き交流したりしてきました。同年代と話ができるとはとても良くて、スマホの翻訳機能や自分の『ゆっくり英語』に耳を傾けてくれたり、お互いの歩み寄り感があって非常に楽しい時間でした。マレーシアはマレー系、中華系、インド系など人々が多様でとても刺激を受けました。これからも学び続けたいです。



研究と運動部の両立を
2年 特進コース・理系
丸山七夢(まるやまなみ)

私も、交配実習をしました。色の変化はできなかつたけど、初めて信州大に行き、施設や道具などに触れ、高校とは違う大きなキャンパスに感動しました。

自分の実験で成功できなくて残念でしたが、顕微鏡をのぞきながら胞子を触るなど、研究者の感覚も経験できたことはうれしく思いました。小さい胞子ってカビの汚いイメージだったけれど綺麗だった。

陸上部に所属していますが、両立しながら、もっと実習をやりたいと思ったし、大学進学への興味も高まりました。



ツバメの研究で総文祭
1年 特進コース
上條弘貴(かみじょうひろき)

学校に生息しているツバメに興味がありました。甲高い特徴のある鳴き声に意味や文法があるのかな、と思い、4月から定点撮影しました。

警戒を促す声、巣に入る前に出す鳴き声など、大きく分類すると3~4パターンがあることが分かりました。

ほかにも声を録音して、親の鳴き声と他のツバメの鳴き声を巣の近くで出してみても、ひな鳥の反応を比べてみました。県総文祭の自然科学部門予選に論文をエントリーしたので結果が楽しみです。



オーストラリアにもっと
2年 文理コース・理系
宮坂妃夏乃(みやさかひなの)

中学時代、海外留学生と深く交流したことがあり、とても興味がありました。留学の希望を家族に話したところ、母から文部科学省の「トビタテ!留学JAPAN」の留学奨学金制度を勧めてもらい、オーストラリアに1ヵ月ほど語学学校に通いながらホームステイしてきました。

正直、人生で一番楽しかったです。語学学校もそうでしたが、買い物や海に遊びに出かけた時などに、リアルに英語でコミュニケーションをとれたことなどで、語学力が向上した自分に感動しました。

でも、日本に戻り英語力がどうしても鈍ってしまったことも感じているので、海外進学を目指しこれからも頑張りたいです。

MATSUSHO HIGH SCHOOL

2024年度 松商学園高等学校 生徒募集概要

審査料 15,000円 2回目の審査料は不要

Table with columns for exam dates (入試日), categories (区分), special/combined (専願/併願), and exam content (試験内容). Rows include '普通科' (General Course) and '商業科' (Business Course) with sub-rows for '特進コース' (Advanced Course), '文理コース' (Liberal Arts Course), and '総合コース' (General Course).



学校法人松商学園

松商学園高等学校

お問い合わせ



〒390-8515 長野県松本市県3-6-1
http://www.matsusho-h.ed.jp
TEL.0263-33-1210